

学位論文の要旨

保健学専攻	医療生命科学分野 医療生命科学領域	氏名	浦 みどり
題目 Relationship between sleep-disordered breathing and sleeping position at the 37th week of pregnancy: an observational cross-sectional study (妊娠37週における睡眠呼吸障害と睡眠時姿勢との関係：観察横断研究)			
要旨 【背景】 妊娠中の女性は体重増加や気流制限などをはじめとする、様々な体の変化により睡眠呼吸障害が増加することが知られている。特に肥満は閉塞性睡眠時無呼吸症候群のリスクファクターとされ、妊娠高血圧症候群や妊娠糖尿病などの合併症、また胎児発育遅延や死産を引き起こす可能性があり、母児ともに危険な状態に曝される。そのため、妊娠中の睡眠時無呼吸症候群は早期発見が重要であるが、そのスクリーニング検査などは確立されていない。 一般の睡眠呼吸障害は、側臥位の姿勢をとることで軽減される可能性が報告されている。妊娠中の女性においても同様の仮説はあるが、未だ証明されていない。睡眠時の姿勢を自己申告に依存した過去の研究とは異なり、本研究は客観的指標を用いて妊娠後期の睡眠呼吸障害と睡眠時の姿勢との関係について検討した。 【方法】 妊娠37週の女性30名と非妊娠女性30名が本研究に参加し、妊娠中の女性はBMI30以上と30未満の2群に分けられた。データ収集は、睡眠呼吸障害を検出するポータブルのスクリーニング用機器を用いて、呼吸障害指数（Respiratory disturbance index：RDI）と睡眠時の姿勢を記録した。 【結果】 側臥位での睡眠時間は非妊娠女性と比べ、妊娠中の女性で有意に増加していた。全RDI（平均±標準偏差）は、BMI30以上の妊婦群：10.7（3.1）、BMI30未満の妊婦群：7.0（3.0）、非妊婦群：4.3（2.9）と3群それぞれで有意差を認めた。BMI30以上の妊婦群は、仰臥位に比べ側臥位で有意にRDIが低下した（ $p=0.04$ ）。さらに、BMI30以上の妊婦群とBMI30未満の妊婦群の間に、仰臥位におけるRDIは有意に差があった（ $p=0.001$ ）。しかし、側臥位ではこの群間で差を認めなかった。 【結語】 肥満を伴う妊娠後期の女性は、側臥位で睡眠をとることで睡眠呼吸障害を緩和する可能性が示唆された。また診断されていない睡眠呼吸障害と、それに伴う妊娠関連合併症に対する効果的な対策となり得る可能性が示唆された。			
研究指導教員 信州大学学術研究院（保健学系）教授 藤本 圭作			